

第三章 艦船部隊 其ノ一(艦隊、艦船、艇)

第一節 艦船一般

第一項 明治二十七、八年戰役前時代

明治三年律令ニ依リ艦長職務、副長、士官、醫官職務、竝ニ碇泊中艦内日課定則ヲ發布セラレ次デ四年十月海軍規則ヲ發布シ艦隊令、艦船類別、給與等ニ關スル法規ヲ指示セリ

同六年八月海軍概則及俸給制ヲ制定發布ス蓋シ前記諸法規ノ不備ヲ更生補修セルモノナリ其ノ内容摘要左ノ如シ

海軍概則 竝ニ俸給制

第一條

一、艦隊ハ軍艦十二隻ヲ以テ大艦隊トナシ八隻ヲ以テ中艦隊トナシ四隻ヲ以テ小艦隊トナシ運送船一隻毎小艦隊附屬スベキ事

但シ臨時不定ノ隻數ヲ大中小艦隊トスルモアルベシ

第二條

一、大艦隊ハ大將亦ハ中將之ヲ指揮シ中艦隊ハ少將之ヲ指揮スル定期タリト雖少將中將ニ代リテ大艦隊ヲ指揮シ大佐少將ニ代リテ

中艦隊ヲ指揮スルモアルベキ事

一、小艦隊ハ大佐之ヲ指揮スベキ事

一、艦隊司令官不在ノ時二艦以上尙港内ニ滯泊スルトキハ諸暗號等隊中隊外ヲ論セズ先任官之ヲ指揮スベキ事

但シ後任官ト雖長官ノ撰擧ニ依テ之ヲ指揮スルコトモアルベシ

第三 條

一、海軍鎮守府ハ附近ノ諸港ヲ統括シ中將或ハ少將其ノ指揮ヲ掌リ又大佐代リテ其ノ職ヲ務ムルモアルベキ事

第四 條

一、諸軍艦ノ等級ハ左ニ擧グル如ク之ヲ七等ニ分ツベキ事

一等軍艦 四百五十五人以上乗組ノ軍艦タル事

二等軍艦 三百十五人以上乗組ノ軍艦タル事

三等軍艦 百七十人以上乗組ノ軍艦タル事

四等軍艦 百人以上乗組ノ軍艦タル事

五等軍艦 六十五人以上乗組ノ軍艦タル事

六等軍艦 四十人以上乗組ノ軍艦タル事

七等軍艦 三十九人以上乗組ノ軍艦タル事

一、皇艦ハ常備艦ニ同ジ等級ハ臨時海軍艚ノ決議ニ付スル事

一、機裝艦及修復艦ヘ乗組ノ者ハ常備艦同様タル事

一、裝載軍艦ハ乗組人員ニ不關三等以上ノ軍艦ニシテ大中小艦ヲ以テ一等二等三等ヲ分ツベキ事

一、運送船ハ八百噸以上ヲ四等トシ五百噸以上ヲ五等トシ二百噸以上ヲ六等トシ其ノ以下ハ渾テ七等タルベキ事

第五 條

一、右軍艦三等以上ヲ大艦トシ四等五等ヲ中艦トシ六等以下ヲ小艦トスベキ事

但シ艦ノ等級ニ不拘少將以上艦隊司令官トシテ乗組ム艦ヲ旗艦ト唱ヘ大佐同上ニシテ乗組ム艦ヲ指揮艦ト唱ヘ大尉艦長タルトキハ六等以上四等以下ノ艦ト雖小艦ト呼アベシ

第 六 條

一、大艦ノ艦長ハ大佐又ハ中佐タル事

但シ一等艦ハ大佐二等艦ハ中佐艦長タル事定則ナリト雖大佐ヲシテ二等三等艦ノ艦長タラシメ中佐ヲシテ一等艦ノ艦長或ハ

中艦ノ長ヲ命ズルコトアルベシ

一、中艦ノ艦長ハ少佐タル事

一、小艦ノ艦長ハ大尉タル事

第 七 條

一、一等艦ノ副長ハ少佐タルベシ二等艦以下ノ副長ハ大尉タル事

一、艦長艦隊司令官ヲ兼務スルトキハ其ノ副長ハ少佐タル事

一、少將以上乗艦指揮スルトキハ大中艦ノ別ナク艦長ハ大中佐、副長ハ少佐タル事

第 八 條

以下給與ニ關スル事項ニ付之ヲ略ス

明治八年四月伊東東海鎮守府司令長官ヨリ左記申出アリ

艦隊中ノ艦船ニ於テ施行致來候職務區々ニ相成居不都合不尠候ニ付今般別紙ノ通諸規則等相定度決議致候ニ付何分ノ御評議相成

度此段申出仕候也

明治八年四月二十九日

伊 東 海 軍 少 將(祐慶)

本 省 御 中

右ニ依リ乘員一般心得、乗艦尉官職務、艦船會計掛事務等ヲ發布施行セシメラレシガ更ニ明治十二年六月ニ至リ東海鎮守府司令長官伊東祐慶ヨリ海軍卿川村純義宛前記諸法規ヲ改正詳記セル左記諸規定ヲ進達シ裁可ヲ仰ゲリ

一、海軍艦隊規則

通則、艦船長職務章程、副艦船長職務章程、尉官職務章程、航海科尉官職務章程、水兵分隊士官職務章程、
春秋日課、毎週日課

二、下士以下一般心得

三、掌砲長職務

四、水兵長職務

五、木工長職務

六、警吏職務

七、乘艦及在勤警備職務章程

同十七年十月一日艦隊編制例ヲ定ム左ノ如シ

艦 隊 編 制 例

一、凡ソ艦隊ハ三艘以上ノ軍艦ヲ以テ之ヲ編制シ其ノ勢力ニ應ジ別テ左ノ三種トス

大艦隊、 中艦隊、 小艦隊

二、艦隊ハ編制シテ之ヲ常備シ又ハ臨時之ヲ編制スルモノトス

三、艦隊ハ二艦隊以上ヲ併合シテ更ニ一艦隊ヲ編制シ又二艦隊以上ヲ集合シテ聯合艦隊ヲ編制スルコトアリ

四、艦隊ハ役務ヲ由テ其ノ名ヲ付シ又之ヲ布置シ或ハ發遣スル所ノ海洋若ハ地方ノ名ヲ取り某艦隊ト稱スルヲ例トス

一 同日艦隊職員條例ヲ定ム其ノ内容ヲ概記セバ左ノ如シ

一、艦隊區別即チ大艦隊、中艦隊、小艦隊毎ニ職名及定員(官等人員)ヲ定ム

二、各職ニ對スル職務所掌ノ大要ヲ掲記ス

而シテ參謀ノ職掌ニ就テハ左ノ如ク記セリ

(一) 司令長官、司令次官、司令官ノ參謀ハ司令長官、司令次官、司令官ニ隨從シ參謀長ノ指揮ヲ受ケ艦船ノ現狀、外國軍艦ノ

勢力、沿岸地方ノ形勢ヲ詳知シ水路ノ難易ヲ攻究シ司令長官、司令次官、司令官謀略ノ資ニ供スルヲ任トス又司令長官、司令次官、司令官ノ信號ヲ掌理スベシ

(2) 司令長官、司令官ノ參謀ハ砲銃、水雷、航海、艦體ニ係ル書類ヲ審査シ之ヲ司令長官、司令官ニ出スベシ

(備考) 大艦隊及中艦隊ニハ各司令長官及司令次官アリ小艦隊ニハ司令官ノミトス

同日、軍艦職員條例ヲ定メ之ヲ發布セリ本條例ハ斯種法規ニ對スル爾後ノ基礎ヲ爲セルモノニシテ相當體裁ヲ具備セルモノノ嚆矢タルト共ニ軍艦職員中ニ水雷長以下ノ水雷部員ノ正式ニ顯出セル最初ノモノタリ摘要左ノ如シ

軍艦職員條例 (關係條項) (摘要)

第一條

軍艦ノ職員ハ左ノ如シ

- 一、艦長 佐官又ハ大尉ヲ以テ之ニ補ス
- 一、副長 少佐又ハ大尉ヲ以テ之ニ補ス
- 一、砲術長 大尉又ハ中尉ヲ以テ之ニ補ス
- 一、水雷長 同 前
- 一、航海長 同 前
- 一、分隊長 同 前
- 一、機關長 機關少監或ハ大機關士若ハ中機關士ヲ以テ之ニ補ス
- 一、軍醫長 軍醫少監或ハ大軍醫若ハ中軍醫ヲ以テ之ニ補ス

- 一、主計長
主計少監或ハ大主計若クハ中主計ヲ以テ之ニ補ス
- 一、水雷主機(以下關係職ノミテ掲記ス)
大機關士或ハ中機關士若ハ少機關士ヲ以テ之ニ補ス
- 一、掌水雷長
兵曹上長或ハ兵曹長ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、水雷教授
兵曹ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、掌水雷長屬
同 前
- 一、水雷工手
同 前
- 但シ此職員中經種ニ依リ之ヲ置カザルモノアリ
- 第五條 艦長ハ其ノ經就任ヲ命セラレタルトキハ大砲ノ實射或ニ水雷ノ試發ヲ施行スベシ而シテ其ノ成績ハ所管長官ニ報告スルモノトス
- 第六條 艦長ハ定規ニ從ヒ大砲及水雷ノ實地演習ヲ施行スベシ而シテ其ノ成績ハ所管長官ニ報告スルモノトス
- 第九條 艦長ハ砲術、水雷運用等ノ操法ニ於テハ定制ノ式ニ從フベシ 但シ其ノ改良意見アルトキハ之ヲ所管長官ニ具狀スルコトヲ得
- 第五十八條 砲術長ハ水雷長ヲ置カザル艦ニ在テハ水雷、電氣燈、發砲電機等ノ事ヲ管理スベシ
- 第五十九條 水雷長ハ艦長ヲ補助シテ主官ノ兵備ヲ整頓シ又水雷ノ教授ヲ監督スルヲ任トス
- 第六十條 水雷長ハ掌水雷長水雷教授以下諸員ノ職務ヲ監督シ且其ノ行狀伎倆ヲ詳知スルヲ要ス
- 第六十一條 水雷長ハ常ニ水雷、水雷裝藥及水上發射器其ノ他主管ニ屬スル器具ノ適否ヲ調査シ以テ實用ニ支障無カラシムベシ
- 第六十二條 水雷長ハ水雷ニ關スル部署ヲ定ムルトキハ艦長ヲ補助シ而シテ常ニ其ノ表ヲ整理スベシ
- 第六十三條 水雷長ハ魚形水雷縱舵ノ改正ヲ要スルトキハ之ヲ艦長ニ具申スベシ
- 第六十四條 水雷長ハ魚形水雷ニ關スル日誌及成績簿ヲ記註シ又其ノ主務ニ關スル諸報告ヲ調製シ之ヲ艦長ニ出スベシ
- 第六十一條 水雷主機ハ魚形水雷及水雷船ノ機關部、電氣燈ノ發電機並ニ空氣壓搾機等ヲ管理シ水雷工手以下諸員ノ職務ヲ監督

シ且其ノ行狀伎倆ヲ詳知スルヲ要ス

第二百二十二條 水雷主機ハ其ノ職務ニ於テハ機關長ノ監督ヲ受クルモノトス

第二百二十三條 水雷主機ハ其ノ主管ニ屬スル機械ノ制式及其ノ用法等ヲ詳知シ常ニ之ヲ保護整頓シ以テ實用ニ支障無カラシムベシ

第二百二十四條 水雷主機ハ魚形水雷及其ノ附屬具中掌水雷長ノ主管ニ屬セザルモノハ之ヲ保護シ又水中發射管及之ニ屬スル器具ヲ保護整頓スベシ

第二百二十五條 水雷主機ハ其ノ主管ニ屬スル機械ニ故障アルトキハ機關長ヲ經由シテ之ヲ艦長ニ報告シ而シテ水雷長ニモ通知スベシ

第二百二十六條 水雷主機ハ其ノ主務ニ關スル諸報告ヲ調製シ機關長ヲ經由シテ之ヲ艦長ニ出スベシ

第二百四十七條 掌水雷長ハ水雷、水雷裝藥、電氣信管、及電纜等ヲ保護シ水雷藥庫ヲ整頓シ水雷具庫ヲ管理スルヲ任トス

第二百四十八條 掌水雷長ハ水雷長ノ監督ニ屬シ水雷長アラザルトキハ砲術長ノ監督ニ屬スルモノトス

第二百四十九條 掌水雷長ハ主管ノ職務ニ於テハ掌水雷長屬以下諸員ヲ監督シ且其ノ行狀伎倆ヲ詳知スベシ

第二百五十條 掌水雷長ハ其ノ主管ニ屬スル諸物品ノ收受返送付ニ際シテハ其ノ物質數額ヲ精密ニ調査スベシ

第二百五十一條 掌水雷長ハ水雷及水上發射器ノ屬具其ノ他裝藥信管等ヲ精密ニ調査シ實用ニ適セザルモノアルトキハ速ニ之ヲ水雷長ニ申告スベシ

第二百五十二條 掌水雷長ハ常ニ乾濕綿火藥ノ現狀ニ注意スベシ其ノ形狀及重量ノ試驗法ニ於テハ砲毛綿火藥取扱規則ニ違フコトナキヲ要ス

第二百五十三條 掌水雷長ハ其ノ主管ニ屬スル器具物品ヲ保管シ又需用物品ハ勉メテ之ヲ節約シ其ノ諸帳簿ハ每週水雷長ノ検査ヲ受クベシ

第二百五十四條 掌水雷長ハ其ノ主管ニ屬スル物品ノ諸報告ヲ調製シ之ヲ水雷長ニ出スベシ

第六十九條 凡ソ下士ハ各分隊長(機關工手火夫長屬ハ機關長)ニ隷屬シ艦則チ遵守シ同隊諸卒ヲ誘導シ又分隊長ノ命ヲ受ケ卒ノ身上ニ係ルコトヲ取扱フベシ

第七十條 下士ハ各分隊長ニ隷屬スト雖モ當直中ニ在テハ當直士官ノ指揮ヲ受ケ其ノ他ノ職務ニ於テハ各主務官ノ指揮ヲ受ケベシ

第七十二條 水雷教授ハ水雷長ノ指揮ヲ受ケ水雷操法ノ教授ヲ掌ルベシ

第七十五條 掌水雷長屬ハ水雷長ノ指揮ヲ受ケ掌水雷長ヲ補助シテ水雷ニ關スル器具物品ヲ保護出納シ水雷藥庫ヲ整頓スベシ又掌水雷長事故アルトキハ其ノ代理ヲ爲スベシ

第七十一條 水雷工手ハ水雷主機ノ指揮ヲ受ケ水雷、發砲電機電氣燈及其ノ屬具ノ修理ヲ掌リ水雷具庫ヲ整頓スベシ

即チ本條例ニ依ルトキハ當時ノ水雷關係職員ノ職責ハ左記ニ要約スルコトヲ得ルガ故ニ今日ノ水雷長ニ比スレバ甚シク限縮セラレアルヲ見ルベシ

一、水雷長

單ニ水雷(魚形水雷ヲ除ク)及水上發射機ヲ主管シ水雷教授及掌水雷長ヲ監督ス

二、水雷主機

系統的ニハ全然水雷長ト獨立シ魚形水雷及附屬兵器竝ニ水中發射機ヲモ主管ス(水雷以外ニ就テハ之ヲ略ス)

同十九年 新ニ軍艦兵員部署程式、陸戰隊概則等ヲ制定發布ス而シテ其ノ部署程式ノ内容項目左ノ如シ

- 一、當直表
- 二、端艇員
- 三、運用部署
- 四、戰時部署
- 五、水雷艇防禦
- 六、陸戰隊
- 七、火災部署表
- 八、分遣消防隊及雜則

同二十二年七月二十三日艦隊條例ヲ公布ス其ノ内容ハ大、中、小艦隊及司令次官等ノ呼稱ヲ廢シ幕僚組織及其ノ呼稱ノ一部ヲ變改シ稍々現時ノ體裁ニ近邇セルモノナリ尙同日ヲ以テ艦隊條例ノ改變ニ伴ヒ艦隊職員條例中一部ノ改正アリ

同、同日 新ニ軍艦條例ヲ公布シ現行艦船令ノ基礎ヲ作セリ之ガ内容中水雷術關係事項ヲ左ニ掲記ス

軍 艦 條 例 (摘要)

- 一、軍艦ハ鎮守府ヲ本管トス
- 二、軍艦々隊ニ編入中ハ艦隊司令長官ニ屬スト雖其ノ本管ヲ變セズ艦隊ヨリ除隊或ハ艦隊解隊シタルトキハ令無クシテ其ノ本管ニ歸スルモノトス
- 三、在役艦、豫備艦及非役艦ノ別(略)
- 四、軍艦ノ定員ハ上長官、士官、准士官、下士及卒ヲ以テ組織ス
- 五、軍艦ニハ定員ノ外候補生ヲ乘組マシム
- 六、定員ヲ臨時増減スル場合ヲ指示ス(略)
- 七、軍艦ノ定員中左ノ職員ハ高等武官ヲ以テ之ニ補ス

艦 長 大佐若ハ少佐若ハ大尉

副 長 少佐若ハ大尉 少佐以下ノ艦長艦ニハ置カズ

砲術長 大尉 同 右

水雷長 大尉 水雷ノ装置大ナラザル艦ニハ之ヲ置カズ

航海長 大尉

分隊長 大尉

機關長 機關少監若クハ大機關士

軍醫長 大軍醫 長官旗艦ニアリテハ軍醫少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ

主計長 大主計 長官旗艦ニアリテハ主計少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ

航海士 少尉

分隊長 少尉 大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カズ

水雷主機 機關士 水雷ノ装置大ナラザル艦ニハ之ヲ置カズ

其ノ他

職員ノ定員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應ジ別ニ之ヲ定ム

練習測量其ノ他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ本條ニ掲グル職員ノ外役務ニ必要ノ職員ヲ置クコトアリ

八、艦長ハ所管長官ニ隸シ乗員ヲ統率訓練シ兵備ヲ整頓シ艦ノ保安ヲ負擔シ一切ノ艦務ヲ統理ス

九、水雷長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ水雷ノ教授ヲ監督ス

十、分隊長ハ隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ戦闘運用防火其ノ他各部署ノ主務ヲ掌理シ分擔ノ兵器及要具ヲ整頓ス

十一、砲術長、水雷長、航海長、分隊長ハ交番當直勤務ニ服ス此場合ニ於テハ當直士官ト稱シ其ノ主務ヲ掌理シ艦ノ保安ヲ負擔ス

十二、水雷主機ハ機關長ノ監督ヲ受ケ魚形水雷及電氣燈ニ係ル機關ヲ管理ス

同二十五年二月水雷兵器裝備艦船ニ定員トシテ水雷教員ヲ配乗セシメラルルコトトナレリ之ヨリ先キ

明治十七年十月制定ノ軍艦職員條例ニ於テハ已ニ水雷教授ナル職名アリシモ事實定員トシテ制定セ

ラルルニ至ラザリシモ斯術ノ進歩發達上之ガ配乗ヲ必要ト認メラレタルニ由ル左記ハ之ガ欲求ノ一例ナリ當時ニ於ケル水雷術教育ノ一班ヲモ窺知スルニ足ルモノト認メ掲記ス

一、明治二十五年一月二十五日攻撃水雷艇隊取調委員長海軍少佐上村正之丞ノ

常備艦隊司令長官有地品之丞ニ致セル上申

水雷練習艦迅鯨ニ於テ教育教程ヲ履行シ右適任證狀ヲ有スル者數名已ニ艦船ニ配乗相成居候得共未ダ各艦船ノ定員表中水雷術教授ナル者御制定無之已ニ旗普第六〇四號ノ御達(二十三年六月十一日)モ有之砲術同様水雷術ニ於テモ訓練上實際教授ノ職ヲ分擔スル者ニ候ハバ此際是非各艦ノ定員中若干名ノ水雷教授ヲ定員トシテ御制定相成候様致度左候ハバ旁々將來ノ裨益ト存ジ意見上申ス

二、同年二月十九日迅鯨艦長諸岡頼之ノ横須賀鎮守府司令長官男爵赤松則良ニ致セル上申

水雷其ノ物タル已ニ海軍主要ノ兵器ト相成新造艦船ニハ大概之ヲ備ヘザルナキニ至レリ元來水雷ハ精妙微密ノ機器ヨリ成リ其ノ取扱方ヨリ發射ノ方法ニ至ル迄頗ル精巧ト熟練トヲ要スルヲ以テ已ニ我海軍ニハ水雷長水雷主機、掌水雷長及水雷教員等ノ職員ヲ設ケラレ水雷發射管ヲ有スル艦船ニハ夫々配乗セラレタリ然ルニ獨リ水雷教員ハ其ノ職名ノミアリテ當時未ダ其ノ定員無シ之レ蓋シ適當ノ教程ヲ修メ其ノ任ニ適スルモノ未ダ僅少ナルガ爲ナルベシ然レドモ凡ソ人ハ其ノ使用サルルノ道ナキトキハ之ニ志願熱心スルモノ又少キハ理ノ當然ナルヲ以テ此道ノ獎勵進歩ヲ圖ランニハ宜シク之ヲ鑑ミザルベカラズ然ノミナラズ艦船ニアリテハ水雷教員ノ職タル甚ダ緊要ニシテ魚形水雷ノ發射其ノ他諸水雷ノ操練竝ニ水雷術ヲ練習セザル乘員ニ諸種水雷ノ應用教授等其ノ業務致テ砲術教員ニ讓ラザルノミナラズ細密ノ機器ニシテ且發射使用特ニ熟練ヲ要スルニ至リテハ蓋シ其ノ上ニアル者ノ如シ然ルニ高千穂浪速ハ勿論嚴島、松島ノ艦船ニアリテモ未ダ此定員ヲ置カレズ之レ蓋シ前述スル如ク其ノ適任者僅少ナルガ爲ナルベシト雖水雷術教員練習生ノ御制定アリシ已來本艦ニ於テ其ノ教程ヲ卒業セシモノヲ已ニ三十一名ニ及ビ尙亦本年モ募集ノ心算ニ有之然ルトキハ各艦船へ配當セラルルト雖教員適任ノ者致テ其ノ人ニ乏シカラザル儀ト被考候由テ水雷發射管二門以

上ノ艦船ニハ定員トシテ一名若クハ其ノ數ニ應ジ二名配乗相成ニ於テハ前述致候進歩獎勵ノ途トモ相成從テ秀逸ノ人員ヲ養成シ得ル儀ト奉存候茲ニ意見上申候也

明治二十七年初夏ニ入ルヤ日清國交彌々緊迫シ帝國ハ諸般ノ戰備ニ急ナリシガ同年六月十八日艦隊條例改正ノ裁可アリ從來ノ夫レニ比シ内容ニ一新正面ヲ招ケリ其ノ要領ヲ摘記セバ左ノ如シ

艦 隊 條 例 (摘要)

- 第一條 軍艦三隻以上ヲ以テ編制スル兵力ヲ艦隊ト稱ス
- 第二條 艦隊ハ之ヲ常置シ又ハ臨時之ヲ編制ス其ノ名稱ハ特ニ勅命ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 艦隊ニハ水雷艇及運送船等ヲ附スルコトヲ得
- 第四條 常置シタル艦隊平時ノ巡航區域ヲ本邦周海トス 但シ二艦隊以上ヲ常置スルトキハ各々其ノ巡航區域ヲ定ム
- 第五條 艦隊ニ司令長官ヲ置キ大將、中將若クハ少將ヲ以テ之ヲ補ス
- 第六條 大將若クハ中將ノ司令スル艦隊ハ其ノ下ニ司令官ヲ置キ少將又ハ大佐ヲ以テ之ヲ補ス
- 第七條 司令長官司令ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク
參謀長、參謀、祕書、航海長、機關長、軍醫長(司令官ノ幕僚ニハ參謀及祕書ノ外之ヲ缺ク)
- 第八條 司令長官ハ天皇ニ直隸シ麾下ノ軍艦ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス
- 第九條 司令長官ハ麾下ノ軍紀、風紀ヲ監理ス

(以下略)

本條例ニ依リ同年七月一日常備艦隊ノ編制替ヲ行ヒ小鷹外五隻ノ水雷艇ハ常備艦隊附屬水雷艇トナレリ